

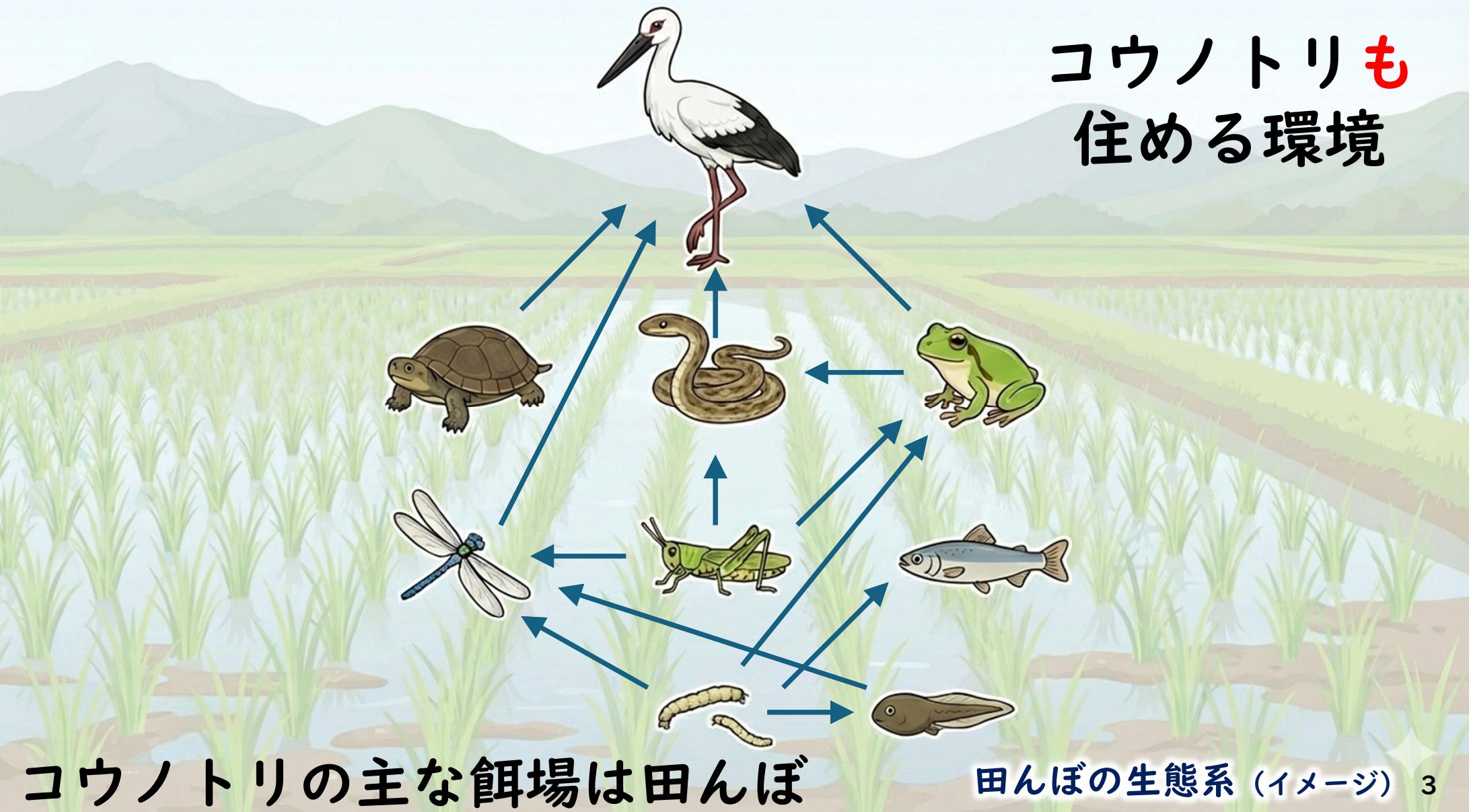


有機農業を核としたまちづくり
- 兵庫県豊岡市 -



日本で一度は絶滅した コウノトリ

コウノトリも 住める環境





以前の田んぼ



現在の田んぼ



コウノトリ復活のプロセスで
最も重要なこと “農業”



コウノトリ育む農法 の定義

おいしい農産物と多様な生きものを
育み、コウノトリも住める豊かな文
化、地域、環境づくりを目指すため
の農法
(安全な農産物と生きものを同時に育む農法)

コウノトリ育む農法

2002年 豊岡市が有機農業の勉強会を開催

2003年 一部の圃場で無農薬・無化学肥料栽培がスタート

2005年 命名「コウノトリ育む農法」

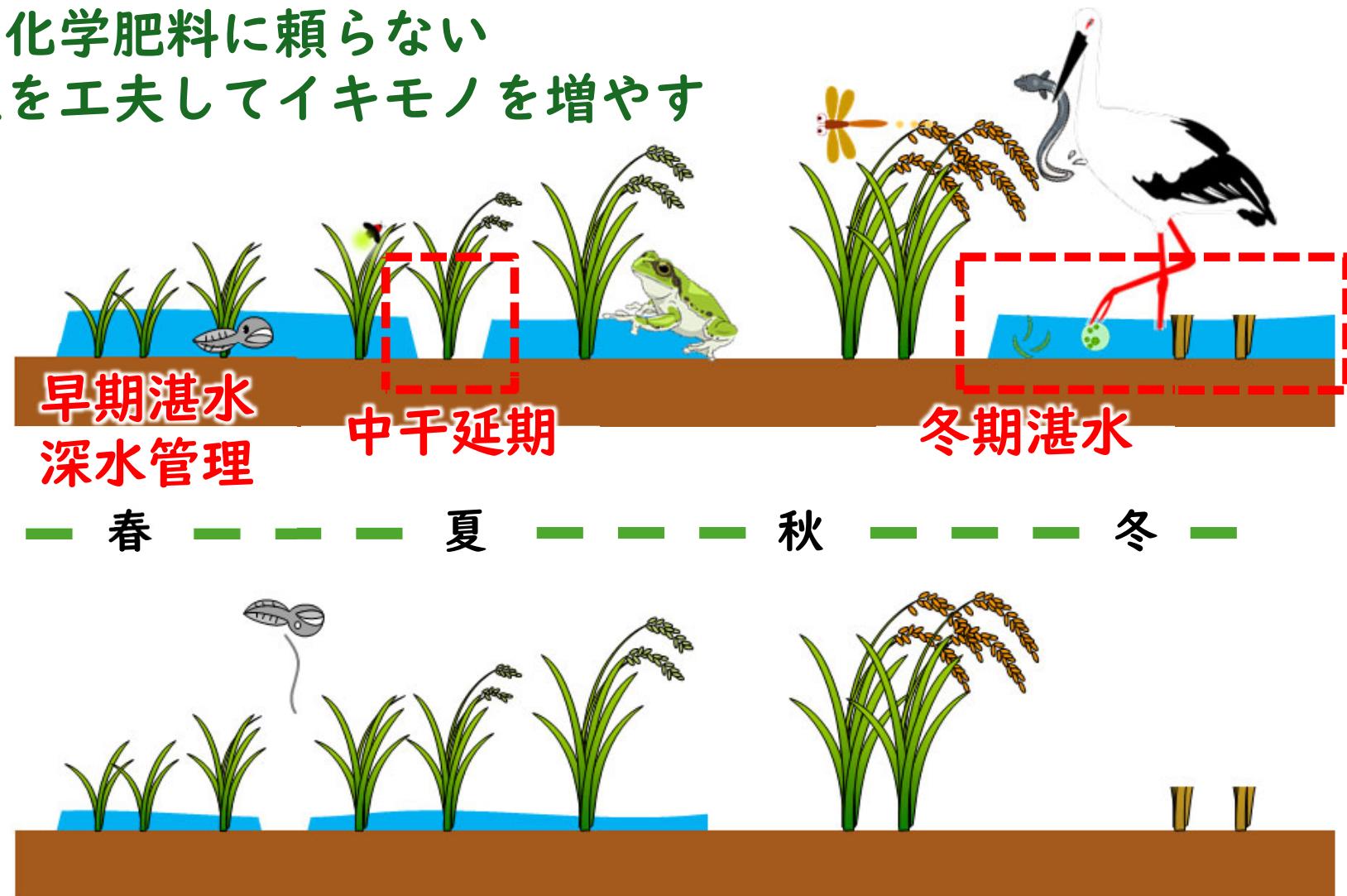
2006年 コウノトリ育むお米生産部会（JAたじま）が発足

2014年 ネオニコチノイド系殺虫剤の使用をやめる（減農薬タイプ）

2016年 全ての殺虫剤の使用をやめる（減農薬タイプ）

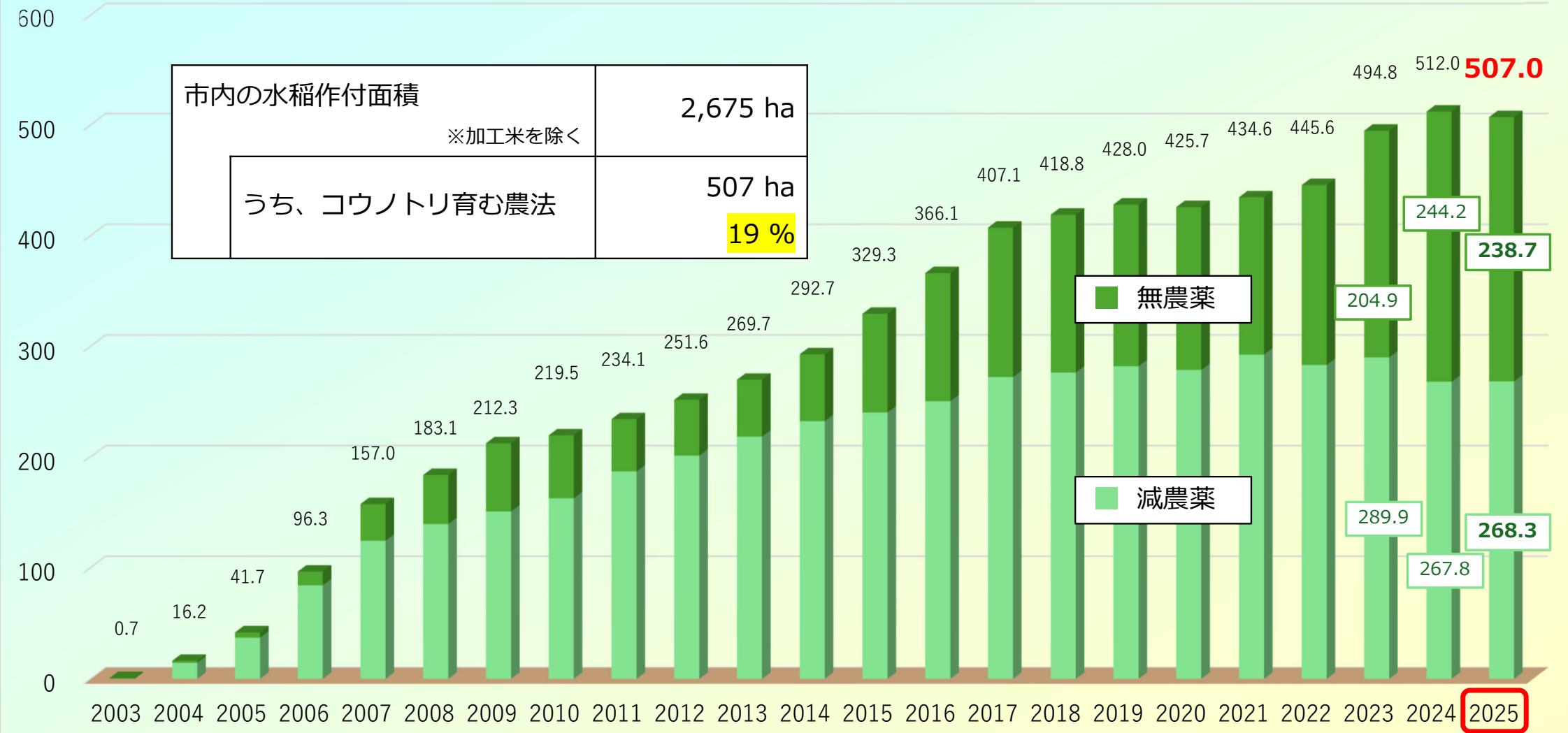
- ①農薬・化学肥料に頼らない
- ②水管理を工夫してイキモノを増やす

コウノトリ
育む農法



一般的な
農法

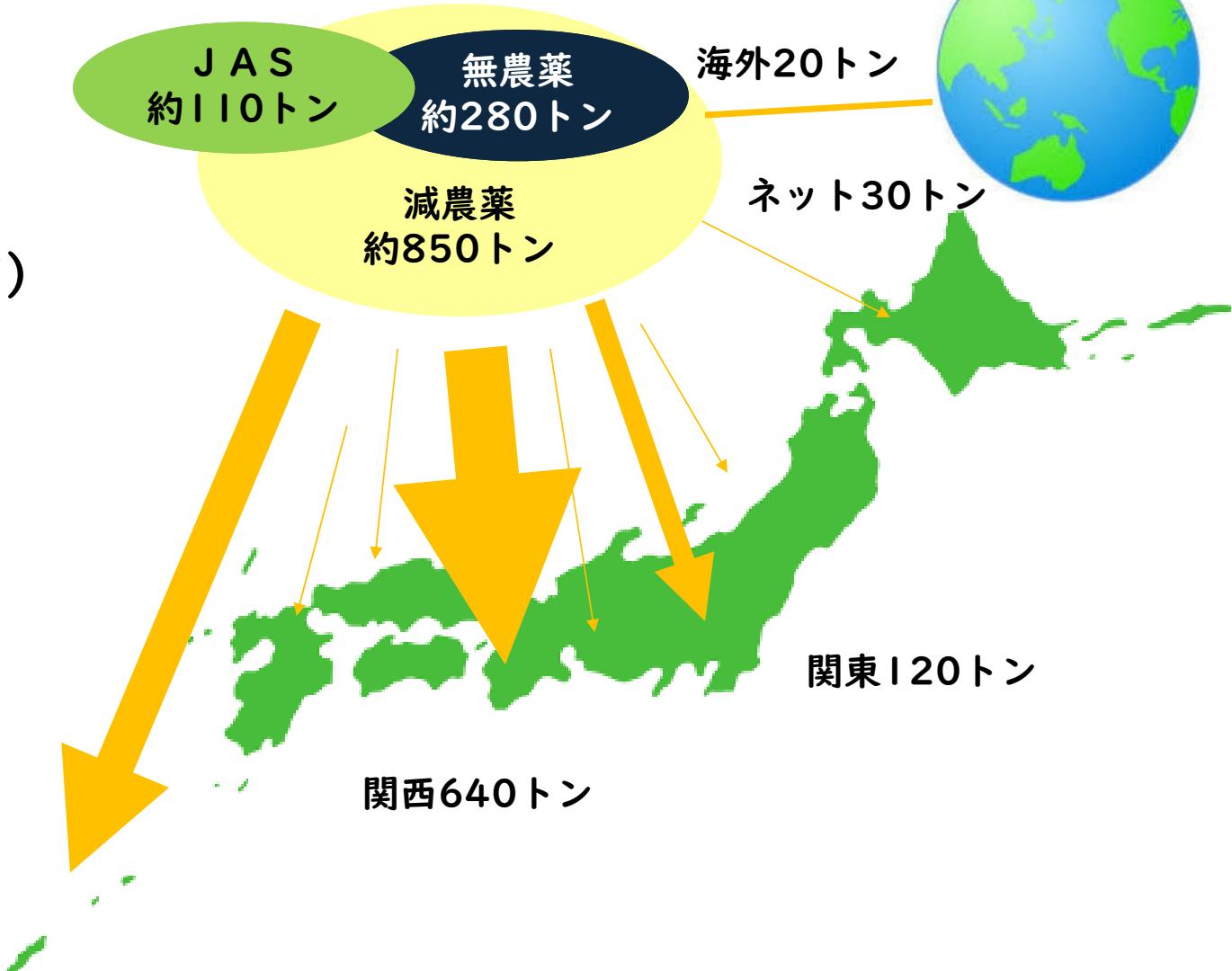
コウノトリ育む農法の水稻作付け面積 (単位: ha)



コウノトリ育むお米の販売状況

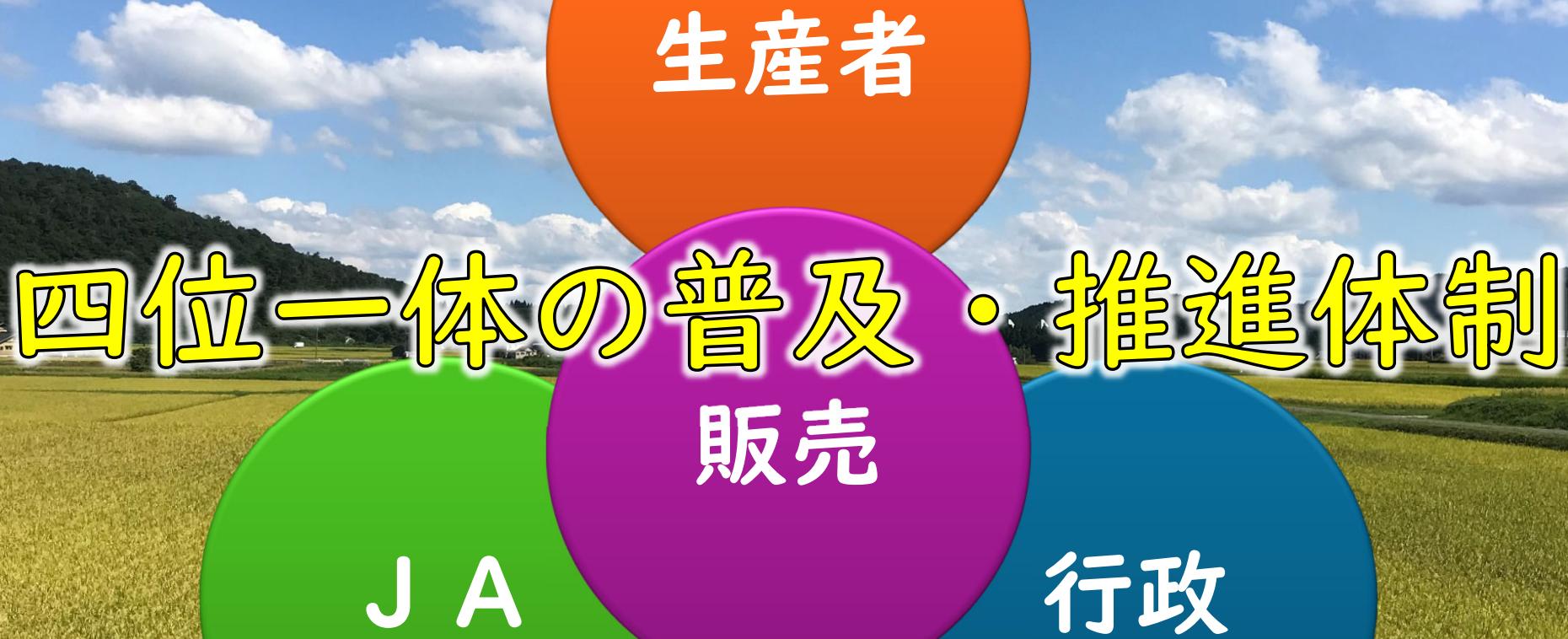


- 主な販売先
- スーパー（量販店）
 - 生協
 - 百貨店
 - 米穀店
 - 海外販売
 - ネット販売など



コウノトリ育むお米の輸出







コウノトリ育むお米を給食へ！

2007年3月 市内の小中学生が、市長に直談判

2007年度 2か月に3回「コウノトリ育むお米（減農薬）」に

2009年4月 週1回「コウノトリ育むお米（減農薬）」に

2016年4月 週5回すべて「コウノトリ育むお米（減農薬）」に



子ども達の考えたロジック

コウノトリ育むお米を食べる
(消費が増える)



コウノトリ育む農法の田んぼが増える



コウノトリや多様なイキモノが
イキイキと暮らせる自然環境が増える



給食のごはんを無農薬に！



年度	2022	2023	2024	2025	2026	2027 目標
提供期間	1ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	6ヶ月	8ヶ月	通年
面積	2.3ha	8.7ha	12.2ha	20.4ha		
数量 (精米)	実績 7トン	実績 21トン	実績 33トン	必要量 約44トン	必要量 約62トン	必要量 約82トン
生産者数	1	10	12	18		



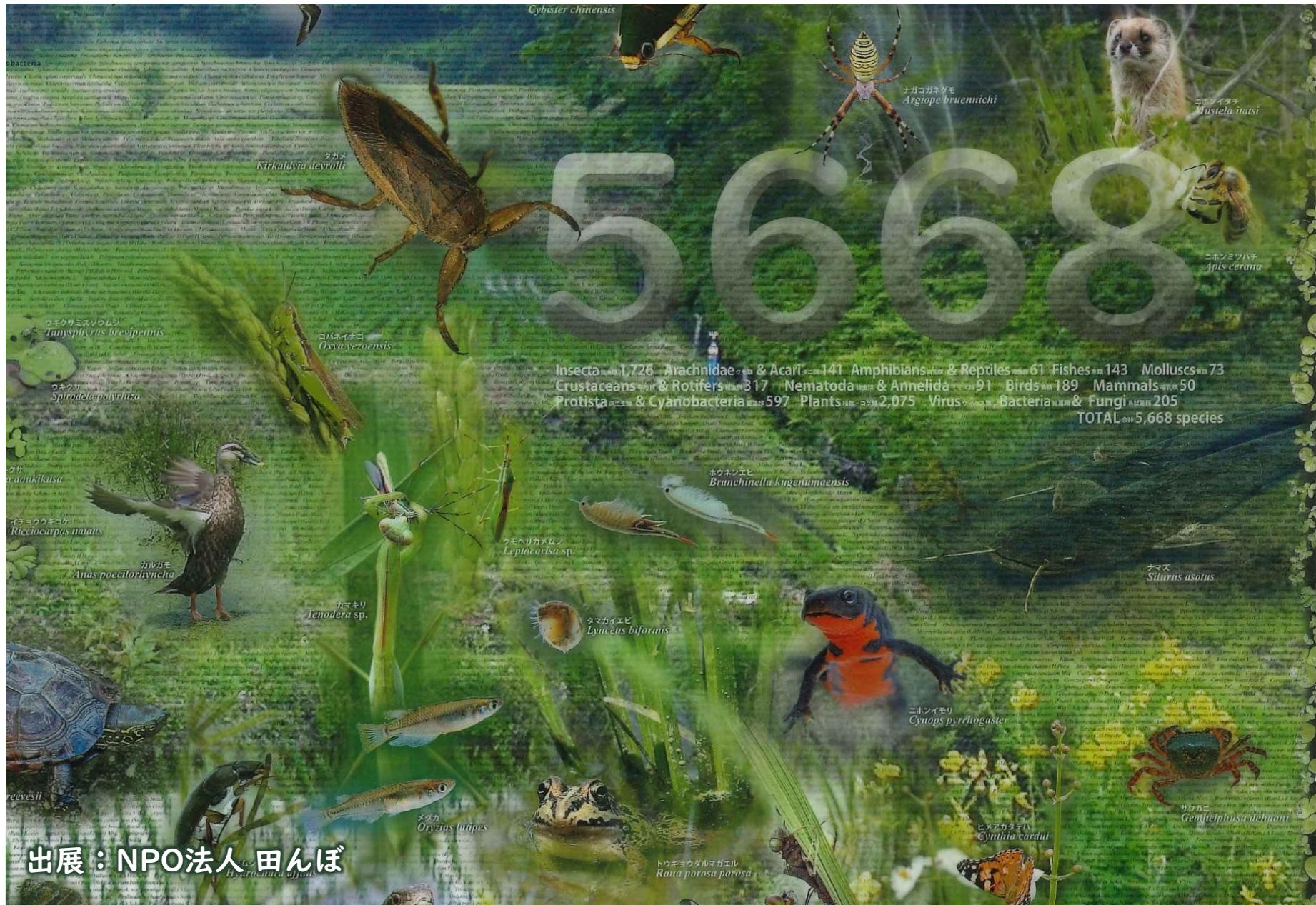
野菜も無農薬に！

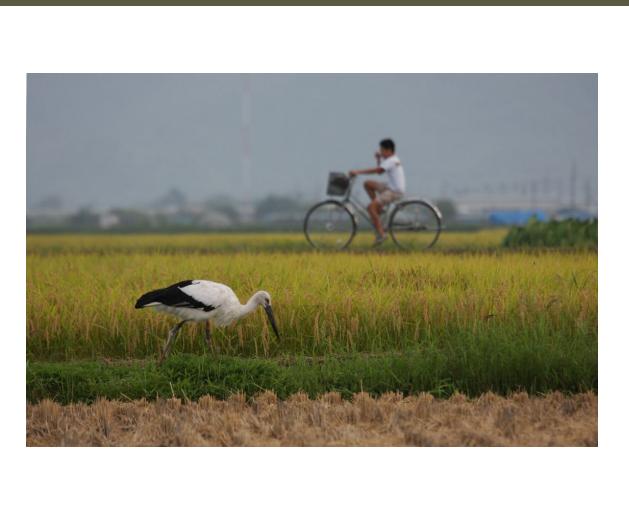
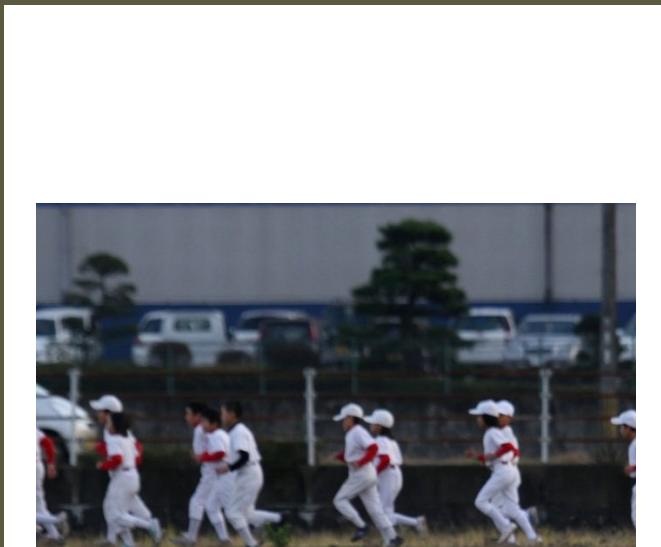


年度	2022	2023	2024	2025	2026	2027 目標
提供期間	1ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	6ヶ月	8ヶ月	通年
面積	2.3ha	8.7ha	12.2ha	20.4ha		
数量（精米）	実績 7トン	実績 21トン	実績 33トン	必要量 約44トン	必要量 約62トン	必要量 約82トン
生産者数	1	10	12	18		
有機野菜	1回/年	1回/年	3回/年	6回/年	9回/年	12回/年



2023.4 有機農業実施計画、オーガニックビレッジ宣言





滅びゆくものは みな美しい
しかし 滅びさせまいとする願いは もっと美しい



人間と動物が愛情によって固く結ばれる文明こそが、
人類文明の名に値するものだ。

あらゆる努力を傾倒して、
この哀鳥の滅亡を救うことに成功したとき、
日本人ははじめて文明国民として世界中から認められるだろう。

「ほろびゆくものはみなうつくしい」とは
詩人の詠嘆（感動を声に出すこと）だ。

だが、滅びゆくものを救うことこそ、
もっと美しい人間の任務である。